【部科校名：危機管理学部】

令和７年度 学生FD CHAmmiT 学部で対応可能な意見に対する報告書

学生意見の集約

実施日	実施内容
令和7年7月10日	【具体的な実施方法】 危機管理学部・スポーツ科学部合同開催にて下記のとおり実施した。 ①両学部混合で自身がよかったと思う授業を共有 ②学部ごとに分かれて①の意見共有と学部・全学に対する要望を検討 【参加学生（学科・学年・氏名）】 [redacted]

学部で対応可能な意見

※学生FD CHAmmiT当日，以下の内容を基に，参加学生からご説明いただきます。

	学生からの意見（学部・学科の問題点）	対応済	対応中	問題解決のプロセス
1	【意見】 1，2年次からフィールドワークを取り入れた授業を設置してほしい。 【理由・経緯】 3年次以降では，ゼミや危機管理実践研究でフィールドワークが行われるが，早期の段階から「実践」の機会を得ることで，危機管理学の実際を知りスキルを身につけることができるから。		○	【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 社会おいて利活用が可能なスキルを早期に身につけられる。 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 フィールドワークを取り入れている多額の事例を通して，授業として成立させるための仕組みなどの情報が必要。 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 フィールドワークなどの実践的な授業をどれほどの割合の学生が望んでいるのかを知る必要がある。
2	【意見】 学生と教員とのかかわりをさらに深める機会や環境を作って欲しい。 【理由・経緯】 教員とのかかわりを苦手と感じる学生もいるため，オフィスアワーのほかにも教員と気軽に触れ合える機会を設けることで，ゼミナール選択にも役立つと思われる。		○	【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 ・ゼミナールの内容についてより詳細に知ることができ，ゼミナール選択の幅が広がる。 ・個々の教員のバックグラウンドを知ることにより，卒業後の進路等の選択の幅が広がる。 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 オフィスアワーを学生がどの程度活用しているのかなどの実態を知るための調査が必要。 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 学生が教員との交流をどのような形で望んでいるのか個人差が大きい可能性。
3	【意見】 食堂メニューの価格が高い。 席数と利用者の比率を検討してほしい。 【理由・経緯】 ・食べ盛りの学生にとって量が少ないと感じることが多いため。 ・昼休憩時には常に満席で，利用できない学生が多くいるため。		○	【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 食堂利用者の満足度の向上とともに利用者数の増加も期待される。 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 下２食堂との交渉や利用者アンケートが必要。 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 利用者が抱える課題や不満を具体的に明らかにする必要がある。